

4 . 新市づくりの基本方針

(1) 新市の将来像

自然と歴史を生かした 新地方都市の創造 ～ 協働と交流による自立した新市をめざして～

新市は、協働と交流によって、自然や歴史をはじめとする多様な地域資源を磨き上げ、自立した新市づくりをめざす『自然と歴史を生かした 新地方都市の創造』を進めます。

「新地方都市」とは、基本的に社会経済活動における効率性・利便性を重視し、新しいものを追求する価値観と、自然のリズムや多様な地域資源、歴史を再認識し、万事手間ひまをかけて物事を深く追求する価値観が、お互いの必要性や良さを認め合い、尊重し合い、また、競い合いながら共存するという基本理念です。

新市の将来像『自然と歴史を生かした 新地方都市の創造』は、この基本理念を踏まえ、5市町村の中にある自然、歴史、文化など人々の心と体を癒す地域資源が豊かな山村地域と、都市的サービス、交通・情報通信など県南部の都市的機能の中核を担う都市的地域が、一体化することによって、住民一人ひとりの価値観に応じたより良い生活をおくることのできる新しい地方都市を、合併を契機として新市の住民の力を結集して創り上げていこうというものです。

新市は、神秘的で奥深い森林・渓谷、景観の良い海岸などの豊かな自然とそこから生み出される新鮮で豊富な海山川の幸、世界遺産登録を目指す熊野古道・熊野本宮大社に代表される歴史・文化、龍神温泉や湯の峰・川湯・渡瀬温泉をはじめとする温泉、ウォーキング、山歩き（トレッキング）、キャンプ、カヌー、海釣り、溪流釣りなど自然を生かした多種多彩な活動や遊び、気候や地理的条件等に恵まれた農業・林業・水産業とその産物を活かした加工業、また、観光リゾート産業、中心都市・田辺市に集積している商業・飲食業や金融・医療・文化・行政機関などの都市的サービスなどの地域資源を有しています。

また、近隣地域には、紀南の観光拠点である白浜温泉をはじめ、マリンスポーツの拠点である枯木灘などの地域資源もあります。加えて、中心都市・田辺市からは、京阪神地域や関西国際空港に2時間、首都圏には飛行機で1時間という時間距離で結ばれ、将来の高速道路の南伸などにより、さらなる交流が期待できます。

自然や歴史などの資源が豊かな山村地域と、県南部の都市的機能の中核を担う都市的地域を有する新市は、『新地方都市』として飛躍する可能性を秘めています。

こうした現状や可能性を内包する一方、少子高齢化社会の進展や住民ニーズの高度化・多様化、厳しい経済情勢や国・地方の財政状況、さらには地方分権時代の地域間競争といった当地域を取り巻く社会経済情勢は大変厳しく、時代は大きな転換期にあります。加えて、20世紀の物質的な豊かさを求める社会から、21世紀は心の豊かさを求める社会に変わりつつあり、新市には多くの人々が求める豊かでゆとりのある多様な暮らしがあります。そうした地域に住むことの喜びと誇りを持ち、厳しい時代の新たなまちづくりを進めていくことが今求められています。

そのためには、新市のみならず、近隣地域も含めた多様な地域資源を今までより以上に有機的に連携させ、行政運営あるいは経済活動や住民活動において、一体的・効率的な取り組みを進め、新市の様々な分野における総合力を充実・強化するとともに、住民一人ひとりが、自分たちのまちの素晴らしさを再認識し、あるいは発掘し、そして、それらの資源を手間ひまを惜しまず磨き上げ、情報発信することによって、住む人が満たされ、訪れる人が癒され住みたくなる、より魅力的なまちを創造していく必要があります。

さらに、「創造」を進めていく上で基本的に大切なことは、地域内の住民、企業、行政が、パートナーシップ（対等な協力関係）の精神に立ち、役割分担と連携をしながら地域資源を磨き上げる「協働」です。また、観光リゾートで地域を訪れる人々、都市と農山漁村との交流やUJIターン⁹者、地域ゆかりの人々とのつながり、地域の振興に資する知恵や技術など、人・物・情報との「交流」も同様に「創造」を進めていく上で大切なことです。「協働」によって新たな「交流」が生まれ、また、「交流」によって新たな「協働」が生まれます。この相乗効果によって、自立した新市づくりをめざします。

⁹ UJIターン：永住を前提として、就労や生活の場所を大都市圏から地方へ移動することの総称。Uターン・Iターンは、地方で育った大都市圏の人が地方へ移動することで、Iターンは、大都市圏で育った人が地方へ移動すること。

(2) 新市づくりの柱

新市の将来像『自然と歴史を生かした 新地方都市の創造』のため、「活力ある利便性の高い新市づくり ～産業振興と交通・情報通信～」、「安全で快適な暮らしができる新市づくり ～防災と環境～」、「元気で安心して住み続けられる新市づくり ～教育と福祉～」の3つの柱を施策の基本とし、その3つの柱を支える「住民参画と行政改革による新市づくり」の取り組みを合わせ、総合的に新市づくりを進めます。

活力ある利便性の高い新市づくり ～産業振興と交通・情報通信～

地域の活力を持続し、魅力ある地域とするため、住民生活を営む上での基礎となる産業の振興と交通・情報通信基盤の整備充実に努めます。

- 第1次、第2次、第3次の各産業間の有機的な連携・一体化により産業構造の強化を図ります。
- 安全で安心な農産物、水産物の供給体制の整備や高付加価値化等の促進、林業の生産性の向上、農地や多面的機能を有する森林の保全・整備等により農林水産業の振興を図ります。
- 緑の雇用事業等を活用して、後継者やU J I ターン者の就労場所の拡充に努めます。
- 事業意欲に富んだ地元の事業所や事業者等の新事業への挑戦や新分野への進出等を支援します。
- 自然や歴史など新市の豊かで多様な資源を生かした観光の充実・強化を図ります。
- 産業の振興と新市の一体性を高め住民生活の利便性向上のため、道路網や情報通信基盤の整備充実に努めます。

安全で快適な暮らしができる新市づくり ～防災と環境～

全ての人にとって住みよい、住み続けたい新市づくりをめざし、安全で快適な居住環境づくりに努めます。

- 「今後30年以内の地震発生確率が40%程度」とされた南海地震など大規模災害に対応した防災対策の確立に努めます。
- 生命と財産を守る救急医療体制や消防防災体制の整備に努めます。
- 水源涵養、環境保全、災害防止などの公益的機能を有する森林資源をはじめとした自然環境の保全、整備を進めます。
- 廃棄物等処理対策、水処理対策に取り組みます。
- 住民に良質の飲料水を供給するための水道施設等の整備に努めます。
- 公営住宅の適切な配置、管理、整備に取り組みます。

元気で安心して住み続けられる新市づくり ～教育と福祉～

子供から高齢者・障害者まですべての人々が安心して暮らせ、いきいきと元気に活動できる新市づくりに努めます。

- 高齢者・障害者福祉については、在宅や施設における介護サービス等の充実とともに、元気高齢者の活動の場づくり、障害者の自立と社会参加への支援、福祉サービスへの民間活力の導入促進等に努めます。
- 次代の社会を担う子供が健やかに生まれ、かつ育成される環境の充実に努めます。
- 病気の早期発見・早期治療だけでなく、病気を予防するための生活習慣の改善、また、社会保険紀南総合病院の整備・充実、各診療所と地域中核病院との連携を図ります。
- ふるさとを大切に作る心を育み、ふるさとの歴史・文化等に愛着と誇りを持ち、さまざまな活動に生かすことのできる人づくりを生涯学習・学校教育・社会教育の各分野において進めるとともに、教育文化施設の整備を進めます。
- 熊野古道や熊野本宮大社の世界遺産登録に鑑み、地域の歴史・伝統・文化資源の保存・継承に努めます。
- 人権尊重と男女共同参画の意識づくり等に努めます。

住民参画と行政改革による新市づくり

行政の効率化と住民ニーズの高度化・多様化等に総合的に対処していくため、住民と行政の協働のシステムづくりを進めるとともに、行財政基盤の充実・強化等に努めます。

- NPO、ボランティア、自治会、地域づくり団体等と行政の協働のシステムづくりに努めます。
- 厳しい財政状況の中でも確実に行政責任を果たしていけるよう、行政改革や健全な財政運営を行うとともに、住民ニーズに対応していける人材の育成や組織体制の見直し、広域行政の強化等に取り組みます。